

## ■ 再検証要請の病院公表「議論の一つのきっかけに」 吉田医政局長

厚生労働省の吉田学医政局長は3日、東京・本駒込の日本医師会館で開かれた社会保険指導者講習会で地域医療構想の実現に向けた取り組みについて講演した。各構想区域で担うべき役割などについて再検証を要請する公立・公的医療機関を公表したことに関しては「そこから見える状況を一つのきっかけとして、あらためて2025年の機能、病床数がどういうものか議論してもらおうというもの」と説明した。

吉田局長は「メディアを通じて全国からいろいろな声が届いている」と述べ、9月27日に発表した医政局の見解のポイントをあらためて解説した。高度急性期・急性期機能に着目したデータであると説明し、慢性期や難病などを受け持っている病院の機能は評価対象になっていないとした。併せて、今後の医療機能と病床数を考えてもらうためのものとし、「病院そのものの〇×を求めているものではない」と強調した。議論を尽くして出された結果の実現に向けては国として必要な支援を実施するとした。

また、地域医療構想の実現には医療従事者の働き方改革と医師偏在対策も大きく関係しているとし、「総合的に取り組むことが40年に向けての課題と考えている」と述べた。

### ●働き方改革、20年度改定でも後押し 森光医療課長

厚労省保険局の森光敬子医療課長は、20年度診療報酬改定に向けた「第1ラウンド」の議論を振り返り、今後のポイントを解説した。改定の背景には地域医療構想や医療機関での働き方改革などがあるとし、「これをどういうふうの後押しするか、診療報酬にも一定の役割が求められていると考えている」と述べた。調剤については「病院と比べて薬局の調剤料が高いのではないかなどの指摘をいただいている。秋から回数を重ねて議論していくことになると思う」と見通した。

日本医師会の今村聡副会長は、消費税率引き上げに伴う19年度診療報酬改定と全世代型社会保障に向けた改革について日医の姿勢を説明した。

## ■ 戸田中央リハ病院、移転し11月開院 ニーズに合わせ増床

戸田中央医科グループの医療法人社団東光会は、新築移転工事を進めていた「戸田中央リハビリテーション病院」を11月1日、埼玉県戸田市新曽南にオープンする。新築移転に当たっては、高齢化に伴う回復期医療のニーズ増加に合わせ、71床増床して200床とした。10月3日に一般向けの内覧会を開いた。

同病院は2002年に同グループ初のリハビリ専門病院として開院。基幹病院の戸田中央総合病院の隣地で回復期医療を担ってきた。新病院は地上6階建てで、延べ床面積は8092平方メートル。1階のリハビリ室は315平方メートルの広さがあり、最新のリハビリ器具を導入した。2～5階の各病棟にも100平方メートルを超えるリハビリ室を設け、入院生活のあらゆる場面でリハビリができる病院を目指す。